



札幌市立認定こども園にじいろ
研究だより 第2号
令和7年8月4日(月)

研究主題	子どもの「やってみたい」があふれ 未来につながる幼児教育
研究の重点	幼児教育における今日的課題に応じた保育実践の充実 ～長時間保育における幼児期にふさわしい生活～
研究の視点	一人一人が1日を通して充実した園生活を送るために

実践事例 4歳児 きりん組 『ハンバーガー屋さんをやりたい!』

～子どもの思い、遊びをつなぐ～

認定こども園に通園する子どもの1日の過ごし方や生活の仕方が近年多様化してきています(長時間保育、短時間保育、預かり保育の利用など)。多くの子どもが時間を共有して過ごしている「教育時間(9時～13時半)」を中心に、1日を通して子どもの思いや遊びが継続していくように、どのような援助や環境が必要かを、事例をもとに考えていきたいと思います。



1号認定児

2号認定児



朝の家庭での時間	教育時間までの園生活(自由遊び) (9:00～9:30)	教育時間 (9:30～13:00)	降園までの園生活(自由遊び) (13:00～13:30)	降園：家庭での時間
----------	---------------------------------	----------------------	---------------------------------	-----------



朝の家庭での時間	教育時間までの園生活(自由遊び) (7:00～9:30)	教育時間 (9:30～13:00)	降園までの園生活(午睡、おやつ、自由遊び) (13:00～19:00)	降園：家庭での時間
----------	---------------------------------	----------------------	--	-----------



ハンバーガー屋さんをやりたい!



保育者の配慮、工夫

朝～夕方まで、時間によってその場にいる子ども、いない子どもが様々なきりん組。だからこそ、子どもたちの思いと遊びをつなげたい!

☆子どもの思いをキャッチしすぐに制作に取り掛かれるように、画用紙や両面テープなどの素材を用意しておきました。

☆発信のあった子どもだけでなく他児も遊びに興味をもてるよう、また子どもたちが同じイメージを共有できるよう、ハンバーガー屋さんで使う具材を入れる箱にイラスト表示を貼りました。

☆家庭でも「園での制作の続きがしたい」という子どもの発信がありました。教育時間外にも遊びがつながるよう、保護者と保育者で様子を細かく共有し、連携しながら思いを支えていきました。



その後の遊びの様子 子どもの姿

☆初めは一人の子どもからの発信だったハンバーガー屋さん。保育者の支えのもと、イメージがクラスの中で広がり、具材づくり、衣装づくり、役割分担(店長、アルバイト役など)につながっていききました。

☆きりん組にあるハンバーガーセットを見て興味をもった年長児と一緒にお店屋さんごっこを楽しむ姿も出てきました。年長児との遊びの経験がもととなり「次は自分たちがお店屋さんになってお客さんを呼びたい」という思いが現れ「きりん組ハンバーガー屋さん」の開店につながっていききました。お店に来てもらうために招待状を渡し他クラスを誘い、開店当日はたくさんのお客さんに楽しんでもらえたことが嬉しく、クラスみんなで成功させた喜びを感じていました。

☆園の遊びが家庭でも続き、家庭から持ち寄った材料をクラスみんなでも共有できたことで、遊びが更に広がっていききました。



まとめ

- 多様化した保育時間の中で、活動時間が重ならないことがある子どもたち。常に同じ時間を共有していなくても、同じイメージをもち、思いがつながっていったことでクラスとしての「やってみたい」が実現した活動になっていったと思います。
- 「やりたいことをやりたいときにできる環境づくり」「遊びへの思い、気持ちがつながる援助」が大切だと感じました。
- 4歳児としては「見てわかりやすい」ことが、イメージの共有を支えていたのだと思います。また、保護者にとっても日々子どもが楽しんでいる遊びがどのようなものなのかがわかりやすくなり、園と家庭との遊びがつながっていきました。

職員の話し合いより

～思いがつながった、遊びが継続したのはなぜだったのか～

【思いに気付く、思いを見取る関わり】

子ども一人の何気ないつぶやきをひろい、思いを汲み取る中で、他児も興味をもてるような援助、環境構成を丁寧に行いました。

【保育者が共感する姿勢】

保育者が遊びの面白さに気付き子どもと一緒に楽しむ中で、どうすれば子どもの思いを実現できるか、クラスみんなで楽しめるかを考えていきました。遊びや生活の中で、子どもが心を動かしている瞬間を大切に見取っています。

【環境準備、教材研究】

保育者は常に、次の展開も予測しながら遊びを援助しています。予測したことが必ずしも現実になるわけではありませんが、子どもの「やってみたい」思いをすぐに実現できるよう、環境準備、素材研究を行っています。特に今回は、子どもたちがイメージを共有できるよう、具材ケースにイラスト表示を付け、視覚的に分かりやすくなる工夫をし、素材をすぐに出して遊べるような「見て分かりやすい」環境づくりを行いました。

【思いの継続 今後の援助】

今回の「ハンバーガー屋さん」は、他クラスを集客した「お店屋さんの開店」が、子どもたちの達成感、満足感を味わう経験につながっていました。クラスの中ではその後もハンバーガーづくりの楽しさが継続し「またやりたい」という思いをもつ姿も見られていました。また、お店屋さんの開店日に不在の子どもがいたり、遊びのピークが他児と異なる場合があったりしたことを振り返り「材料をままごと遊びに取り入れる」「場を常設する」など、その後も子どもが好きな時間に遊べるコーナーを設け、普段の遊びの一部にしていくことで、子どもの思いが途切れず、遊びが継続していくのではないかと考えました。